

高松塚古墳及びキトラ古墳の保存活用について

国立文化財機構古墳壁画 PT 保存活用班

○発掘調査の整理および活用：

1) 古墳現地でのVRコンテンツの開発と活用

タブレットによる高松塚現地VR解説を引き続き実施(春は6月6・7日の予定)。



高松塚・キトラ古墳ともスマホ版コンテンツの運用開始予定（9月を予定）。

図1 スマホ版キトラ古墳石室VR画像

2) 飛鳥の関連古墳に関するGISデジタルデータの記録と整理

飛鳥の関連古墳に対するデジタル計測を継続。取得した成果を飛鳥・藤原地域のGISデータに集積し、コンテンツ化を目指す。

3) 各報告書の編集・刊行

・『キトラ古墳調査報告』『飛鳥資料館所蔵高松塚古墳出土品再整理報告書』を昨年度末に刊行。5月14日に記者発表。

・高松塚古墳石室解体・仮整備事業報告書（編集）

○四神の館における国宝キトラ古墳壁画の活用：2026年度の公開

第39回 天井「天文図」 5/23～6/21

第40回 西壁「白虎」 8/1～8/30

第41回 10周年特別公開「青龍・玄武・朱雀」 9/19～10/18

冬パネル展示 「キトラ古墳と東アジアの十二支像」（予定） 11～2月

※第39・41回公開にあわせてプラネタリウムを放映

※第41回特別公開時（開館10周年）のイベントとして「キトラ古墳壁画絵師体験イベント」、スマホ版VRのオープンイベントほかを計画

○キトラ古墳壁画の赤外線撮影

国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設内に別置保管されているキトラ古墳壁画十二支（申・巳・辰）について、泥に覆われて不鮮明な図像を把握するため、赤外線撮影を実施した。令和 6・7 年の青龍赤外撮影時と同じカメラ・光源に加えて、新たに作製した 1650nm 波長の光源を用いて短波長赤外線による分割撮影を実施した。撮影範囲は、事前準備を経て壁画片全体をカバーする等倍撮影グリッド割付図を作成し、分割撮影した。現在は撮影した各波長の画像を調整・接合し、図像の検討をすすめている。

撮影日時：令和 8（2026）年 5 月 2 6 日

撮影枚数：248 カット（オーバーラップ 50%）

内 訳：申 像 6×4 列＝24 カット×4 波長＝96 カット
申壁画片 2×1 列＝ 2 カット×4 波長＝ 8 カット
巳 像 6×3 列＝18 カット×4 波長＝72 カット
辰 像 6×3 列＝18 カット×4 波長＝72 カット

今後、以下の撮影を実施する予定である。

- ①青龍の追加撮影（1650nm）及び十二支（寅・戌・亥・子）と日像・月像の赤外線撮影。令和 8 年 9 月 10 日予定。
- ②西壁の申上部の赤外線撮影。申壁画片では元素マッピング（2022 年度）で壁画片左上部に Cu の広がりを検出しており、さらに上部（西壁）に広がると思われるため、①撮影時に該当箇所を今回と同じ 4 波長で撮影する。
- ③申・巳・辰の壁画片の通常光による俯瞰撮影。申・巳・辰の壁画片はこれまで表面を養生されていたため、単体で撮影していない。そこで今年度の高松塚古墳壁画の経年変化撮影時にあわせて撮影する。

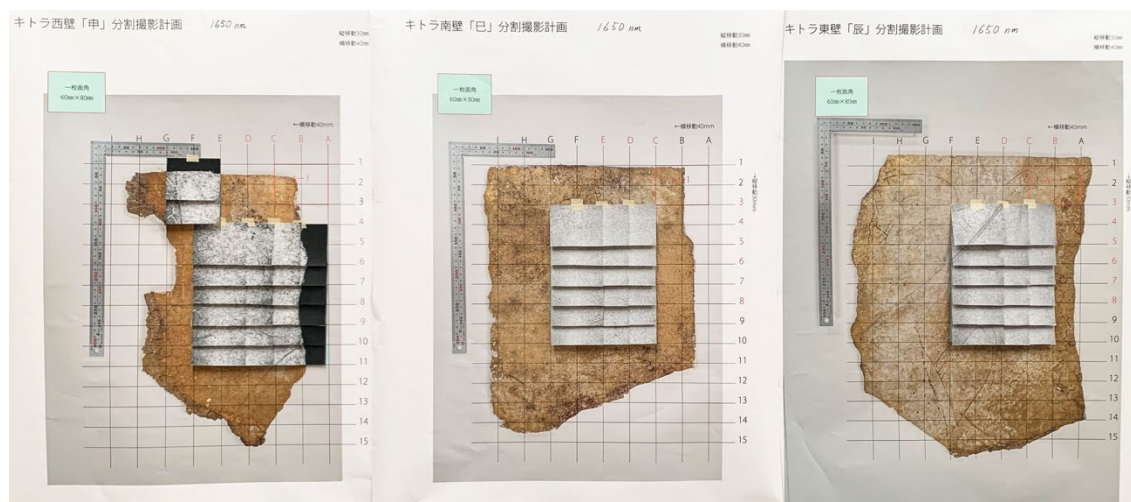


図2 申・巳・辰の撮影画像（1650nm）をグリッド上に仮貼りした状況（等倍プリント）